

# 利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所  
 発行人 増田 郁夫  
 〒378-0031 沼田市薄根町4412番地  
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180  
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.jp

## 使ってなっとく！「はばたく群馬の指導プラン」(学級活動)編

「はばたく群馬の指導プラン」第 章を活用して、学級活動の活動内容(2)の特質に応じた「本時の活動(話し合い活動)」を授業構想した例を紹介します。

### 指導プラン

**題材** すてきな言葉 (小3年・10月)  
(ウ) 望ましい人間関係の形成

**ねらい** 友達とよりよい関係になる言葉のつかい方について、実践目標を自己決定することができる。

活動内容の特質を確認する

1単位時間の基本的な授業の流れは、【集団思考を生かした個人目標の自己決定】なのね。



< 1単位時間の授業の作り方 P.128 > 抜粋

内容	(2)「日常生活や学習への適応及び健康安全」(小学校) 「適応と成長及び健康安全」(中学校)
過程	(3)「学業と進路」(中学校) 「みんなと共に考え、自分で決定し、自分で取り組む活動」
本時の活動	【集団思考を生かした個人目標の自己決定】 6 話し合い活動 ① 導入 (活動の開始) ・問題の把握 (意識化、共通化) ② 展開 (活動の展開) 【集団思考】 ・問題に対する原因の追求 ・解決方法の工夫 ③ まとめ (活動のまとめ) ・自分としての実践目標や解決方法の自己決定 【自己決定】 ・実践への意欲化

## 【自己決定】 【集団思考】の順で授業を構想してみましょう！

自己決定とつながる集団思考をさせるためには、自己決定の姿を具体的にし、話し合いの内容を決めることが大切です。

### 指導プラン

自己決定の姿を具体的にイメージする

**自己決定**

「気持ちのよい言葉」を知るだけでなく、それをつかう場面も考えさせないとよりよい友達関係は築けないわ。  
本題材では、「どんな気持ちのよい言葉(何)を」「どんな場面で(どのように)」という視点を与えて具体的に決めさせよう。

< 活動内容(2)(3)の指導例 P.130 > 抜粋

※自己決定の仕方  
児童生徒一人一人が、個別に、自分に通じた実践可能なことを具体的に決めるようにしましょう。  
☆大切な視点☆  
「何を」「いつまで」  
「どれくらい」「どのように」  
単なる感想に終わらないようにしましょう。

自己決定のイメージ

ぼくは、友達が失敗したときに、「だいじょうぶだよ」と励ましの声をかけよう。

自己決定とつながる集団思考(話し合いの内容)をイメージする

**集団思考**

友達に「いやな言葉」をかけた場面を想起させて、その時にかかる言葉で状況がどうなるか話し合わせれば、「場面」に応じて「気持ちのよい言葉」をつかうよさや改善の必要性を実感できるわ。

「いやな言葉」をかける場面で代わりにつかえる「気持ちのよい言葉」を話し合わせたり、「気持ちのよい言葉」をかける「場面」を話し合わせたりすれば、学級で多くの解決方法が見付かるわ。

集団思考のイメージ

**問題に対する原因の追求**

友達が失敗したとき「何やってる」と言ったら仲よくなれないよ。そんなときはどんな「気持ちのよい言葉」をかけるといいのかな。

**解決方法の工夫**

「どうしたの」と失敗した友達に声をかければ仲よくなれるのだな。「だいじょうぶ」は友達が困っていると聞きや失敗したときにつかえるのだな。

【集団思考を生かした個人目標の自己決定】という話し合いの流れができたわ。



利根教育事務所では、学校支援センターの機能を充実させるポイントとして、

- ①教育効果を高める活動づくり
- ②持続可能なしくみづくり を挙げています。

「地域と学校のパートナーシップ推進フォーラム」での事例発表から参考になる実践を紹介します。



学校と地域が連携するとこんなに素晴らしい取組ができるんですね！

教育効果を高める活動づくり

沼田南中学校の例 中学生が校外へ出て活動する取組です



私たちは、中の会商店会の御協力で震災復興支援「気仙沼の物産販売」に取り組みました。



商店会のみなさんから、柳波まつりで「気仙沼の物産販売」を任せられました。仕入れ計画、販売価格の設定、販売ブースのレイアウト、会計処理までさせてもらい、募金活動も行いました。そして、販売収益と募金は、桜の苗木として気仙沼へ贈ることができました。



柳波まつりに来られたお客様や募金に協力してくださった方々へ御礼として渡す「りんご鉛筆」を全校生徒で製作しました。



柳波まつり：物産販売の様子

【復興支援活動から生徒の成長が見られました！】

3年生は、職場体験学習で学んだ、働くことの意義や価値を更に深めることができました。

商店会や商工会議所、気仙沼の多くの人たちとコミュニケーションを取りながら、完売するためのアイデアを出したり、工夫をしたりしました。



復興支援活動という明確な目的をもつことで、震災直後の義援金募金に比べ、高い意識をもち、主体的に取り組むことができました。



持続可能なしくみづくり

地域コーディネーターが見つからない場合は、こんな方法があるんですね！

月夜野北小学校の例

教育活動サポーターさんが学校支援センターの地域コーディネーター的な役割を果たしています！

ある日、〇〇先生から子ども教室の教育活動サポーターさんに相談がありました。



の活動がありますので、御協力いただける方を見つけてもらえませんか？

はい！分かりました。心当たりがありますので連絡してみます。



【学校はとても助かっています！】

教育活動サポーターさんが、学校のニーズに合う人を見つけてくれます。

先生方が異動しても教育活動サポーターさんが学校支援センターに継続してかかわってくださるので、年々、地域の教育力を取り入れた活動を充実することができています。



教育活動サポーターさんが地域と学校をよく知っているので、学校の求める支援ボランティアが増え、支援ボランティア同士の横のつながりが広がっています。

